

性とセクシャリティの

とりどり に寄せて

にじいろBiwako

2. 自分を隠すということ

NPO法人にじいろBiwako 代表理事 橋本 竜二



「自分は女性じゃなくて、男性を好きになるかも」ということに気づいたのは中学生の時でした。でもそれを認めるのが怖くて、高校生の終わりごろまで誰にも言わずにひとり抱えていました。隠している後ろめたさ、両親に対して、孫の顔を見せてあげられない申し訳ない気持ち、様々な思いがぐちゃぐちゃになって、ある日、母に「女性を好きになれない」と打ち明けました。母も私も大泣きしながら、母は「竜二が元気やったら私はそれ以上なにも望まへん」と言ってくれました。自分にとって、母のこの言葉は今でも宝物です。



母の言葉が宝物になった

社会人になり、住宅営業の仕事に就きました。仕事は大変でしたが同時にやりがいも感じていました。ただ、日に日に、信頼している先輩や上司に自分を隠して嘘をつき続けることが辛くなっていきました。「自分がゲイやから生きづらいのか」——。気づけばそんなことばかり考え、精神的に仕事を続けられなくなりました。ゲイである自分を隠さないで働けないか、今の社会のあり方をじっくり考えられる仕事がないか、必死に探しました。

そして、ご縁があった大阪にあるNPO法人で数年間LGBTQ+に関わる仕事を経験。今は障害がある人の就労支援の仕事をしながら、「にじいろBiwako」の活動にも取り組んでいます。

さて次回は、「そもそもLGBTQ+ってなに？」というテーマで書いていきます。